

しば子先生の

ミニミニ 芝生教室



先生: 今回も土壌中のリン(P)についてお話ししましょうね。土壌中のリンは他の主要要素であるチッソ(N)とカリ(K)と違ってプラス(+)のイオンではなくマイナスの(-)のイオンになるタイプの元素であるわ。

生徒: マイナスのイオンになると言う事は土壌の粒子に電氣的に集められないからすぐに土壌中から移動してしまうのですか?

先生: 他のマイナスのイオンになる元素はその傾向なんだけど、リンだけはちょっと厄介なのよ。土壌中に多く含まれている代表的金属塩の**カルシウム(Ca)**、**鉄(Fe)**、**アルミニウム(Al)**などと簡単に結びついてしまってすぐに水に溶けない、肥料として効果のない形になってしまって、植物には容易に吸収できなくなってしまうのよ。しかも土壌中ではほとんど動かない。

生徒: それはほんとに厄介ですね。実際のどのくらいの割合で不溶性のリンになってしまうんですか?

先生: 土壌の状態にもよるけど施肥したリン肥料の90%は土壌中で不溶性になってしまって肥料としての効果が出ないと言われてるわ。

生徒: 90%ですか。ほとんどダメじゃないですか。

先生: そう、ほとんどダメなのよ。リンは植物の実の結実に重要な役割を果たすことがわかってるから、実を取る作物の場合切実な問題なのよ。ただ芝生は実を取る作物ではないからさほど切実な問題ではないけれど施肥については十分考慮する必要があるわね。

生徒: たしかにリンはチッソやカリの量に比べて10~20分の1の量でいいんですね。

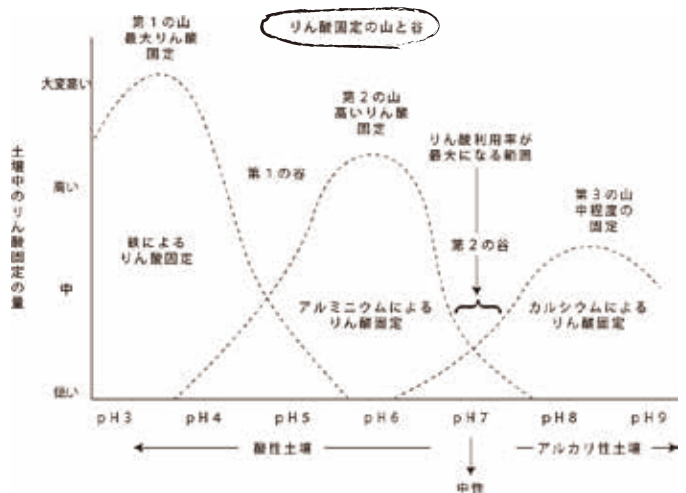
先生: その通り、でも少なくあげても固定されてしまっては困るわね。最近ではリン肥料の土壌中の固定を避けられるように作られた肥料添加剤があるのでそれらの利用も検討する必要ありね。

生徒: なるほど。いいものがあるんですね。

先生: それらの新しい技術に頼らなかったとしても、土壌中のリンの量を正しく把握しないで、過剰に施肥することは土壌のバラン

スを崩して他の養分の吸収の妨げにもなるから、やはり『適正』な施肥計画が重要になるわ。このリンの土壌中の変化はとても難しくてまだまだ分からないことも多いし、特に実際の土壌中で何が起きているかを正確に知る方法はまだないわ。あくまでも土壌分析結果とポットなどの試験データから類推するしかないのが現状。pHや土壌の物理性、温度、水分量、他の養分の量。そして土壌微生物など。さまざまな土壌条件によって複雑に変わるので一言では言い表せないのよ。とにかく土壌の正しい化学性と物理性をきちんと維持することが王道ね。

生徒: リンの芝生に与える影響はやはり大きいのでしょうか?



先生: さっきも言った通り多い量は必要としていないので施肥の効果が出にくいからと言っても多量にあげることは意味がないわね。仮にリンが多量に吸収可能で存在していてもチッソがなければ十分に吸収できないし、芝生の抵抗性を上げるにはカリも必要。その次に第二要素が。適正なpHも重要。芝生の管理でリンの施肥は重要であることは間違いないけれど最重要課題ではないと言う事ね。正しい土壌条件と養分バランスを考えることが基本。でも過剰な土壌中のリンは要注意ね。

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ。
shibako@hugh-enterprise.co.jp

